

今月も CASE 学習をします。CASE を材料に、統合（何が癒やされるべきか？）を考えて行きましょう。

今回は、子供の CASE です。

子供をセッションする場合も、基本は同じですが、子供特有の留意点があります。クライアントが子供の場合（0 歳～10 歳程度まで）、どのような難しさ（やりやすさ）があると思いますか？

子供のセッションで一番大切なことはひたすら観察することです。

乳児期はもちろんですが、小学生でも、自分のことを言葉で的確に表現出来ません。その言葉の代わりになるのが、態度・行動・表情・興味・表現（絵・音楽など）です。こういう情報を得られるように画用紙など小道具を準備しておくことも有効です。

また、当然ですが、言葉での情報不足を補う最大の助っ人は、母親です。そのお子さんが記憶にない時期の情報は母親からしか得られません。

母親から得られる情報は、2 つあります。1 つ目は誕生から「今」に至るまでのその子のこと。2 つ目は、妊娠期間でのこと。妊娠時の出来事もとても大切なその子の特徴が表現されています。

子供のセッションでは、大きく 3 つの情報ソースに注目する必要があります。

1. 期近～今に至るまでのその子についての本人からの情報
2. 誕生から今に至るまでの母親からの情報
3. 誕生前（妊娠期間）の母親からの情報

これら 3 つを合わせて、CASE の全体を理解するようにして下さい。

今回も「前分析--->分析--->統合」することで、病の中心を捉えて行きましょう。

いつものように守秘義務を守って下さい。尚、ケースは授業後回収させていただきますので、気になることや要点はノートなどに記して下さい。

では、始めましょう！